

# ときめき人

Tokimeki bito

## 音楽で特別な場所を



「森波実行委員会」の皆さん。  
後列右が菅原和彦副代表。

森波YouTube  
チャンネル

「お客さんが音楽を聴いて踊って楽しんでいる姿を見ることが何よりもうれしい」と笑顔で話す副代表の菅原和彦さん。森波は2008年にスタートした野外音楽祭。市内で働く10人が実行委員として運営する。

森波実行委員会(柴田道文代表)が活動を始めたのは14年前。自分たちの好きなことを通して、地域の交流や多様な人とのつながりができればと思ったことがきっかけ。現在は森舞台を会場とし、能舞台ならではの音響装置である床下のかめを生かした迫力のあるサウンドで来場者を魅了する。「始めは、著名なアーティストを招待するために東京や遠方に行きました。また、地域の理解を得るために日ごろからコミュニケーションをとるように

心掛けました」と話す菅原さん。実行委員の長年の努力が積み重なり、森波の開催につながっている。

「大人だけでなく、子どもからお年寄りまで幅広い年代が楽しめるイベントを目指している」と話す菅原さん。森波では、多くのアーティストのライブのほか、出店などが並んでいる。また、感染症対策はもちろん、授乳・おむつ交換スペースを確保し、小さな子どもがいる家庭でも来場しやすい環境を整えている。今年は7月17日(日)に開催され、約300人が会場に足を運んだ。

「音楽や人とのつながりで、登米市の発展の架け橋になれば」と話す実行委員の皆さん。「特別な場所」、「他とは違う登米市」の実現を目指す実行委員会の活動は今後も続いていく。

## 編集後記

▼私は夏が苦手です。猛暑に大雨、今年も夏の天気は翻弄される日々が続く中、水の里を巡る時間にとっても癒やされ、救われました。爽やかな風と輝く水面、そこで出会った人たちの晴れ渡った青空のような笑顔。紙面を通して、皆さんにも水辺の涼を感じてもらえたらうれしいです。(渡邊)

▼ときめき人を取材。実際に森波に行き、幅広い年代が楽しむ姿、音楽によって広がる人とのつながりを肌で感じてきました。実行委員の中には森波がきっかけで東京から登米市に移住した夫婦もいるということで、改めて音楽やこうしたイベントの見えない力を実感しました。(白石)

▼佐沼夏祭りが3年ぶりに開かれました。初めて目にする津島神社のみこし。そこに「おみこしワッショイ」の姿はありません。神聖さを感じる渡御行列がまとう凜とした空気。猛暑も忘れさせる雰囲気。いつの間にか飲み込まれてしまいました。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

